指導者が選手に与える影響
～ジュニア期に着目して～

直永　健司　（競技スポーツ学科　スポーツ情報戦略コース）
指導教員　望月　聡

キーワード：言葉掛け,トップダウン理論, ボトムアップ理論

1. 緒言

指導者の一つ一つの言葉の使い方で子供の物事に対する取り組む姿勢が全く違ってきます.本研究では,どのような言葉掛けや指導が必要なのかを明らかにすることを目的に研究を行う.

2. 研究方法

①　研究対象

大阪府北河内地区の各6市の各2チームと寝屋川市の10チームのU-12を対象にしているサッカー指導者

②　分析方法

⑴アンケート調査

調査対象　U-12指導者22人に実施

⑵ゲーム観察

2014年ライフカップ（知事杯）

1次予選,2次予選,3次予選⇒全30試合

主なゲーム中の指導者のコーチングを取り上げてまとめる.

3. 結果と観察

(1) アンケート調査

指導者は,選手にサッカーのスキルではなく人間性の成長・集団生活・スポーツの楽しさ知ってもらう事を求めていた.選手が自主的・主体的に行動出来るように指導者は,全てを与えるのではなく選手自身に気づかせるためにヒントを与えるべきだ.万が一間違えた行動でも怒るのでなく問いかけて会話をしながら良い選択肢を導かせる.

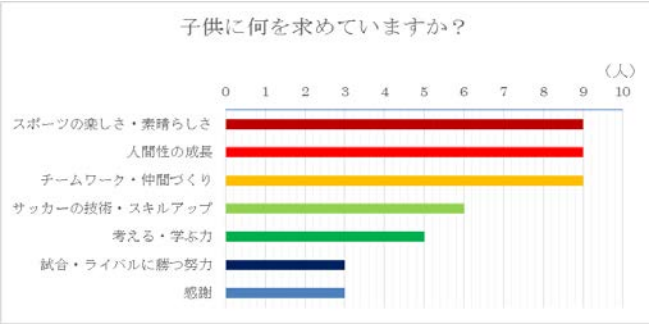

図:1 アンケート質問4の結果

(2) ゲーム観察

アンケート調査・ゲーム調査を進めていく中で,トップダウン理論とボトムアップ理論と言う2つの指導方法が挙げられた.

4. まとめ

以上の研究でトップダウン理論とボトムアップ理論が挙げられ,指導者が子供に主体的・自主的な行動を求めているのなら,ボトムアップ理論が適していると考えられる.しかし,ジュニア年代で全てボトムアップ理論をしてしまえば子供のサッカーの知識が少ないので,アイデアや引き出しを作るためにトップダウン理論が必要だ.

ボトムアップ理論とトップダウン理論を上手く使いこなすことが大切であると言える.